

Sustainability

TCFDに基づく情報開示

TSI HOLDINGS GROUP

Creating a sustainable future with fashion entertainment

ファッションエンターテインメントで
サステナブルな未来をつくる

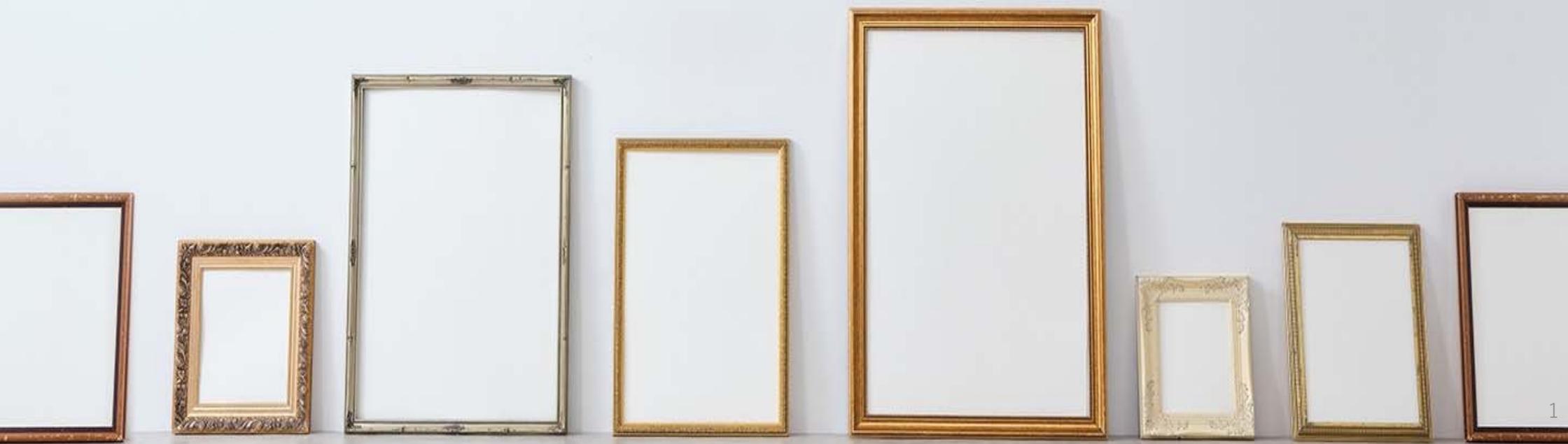
2022/10/12

TSI HOLDINGS GROUP

Contents

アジェンダ

はじめに	
・カーボンニュートラルの実現に向けて	2
ガバナンス	
・サステナビリティ委員会の設置	3
リスクマネジメント	
・リスクのシナリオ分析	4
・リスクの特定	5
戦略	
・事業改革とイノベーション領域	6
・カーボンニュートラルに向けた戦略	7
指標と目標	
・バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量可視化と削減目標	8



Introduction

カーボンニュートラルの 実現に向けて

アパレル業界のCO₂排出量は全産業の内、4-10%を占めると言われており、その削減が最重要課題です。

そこで、私たちは2050年にカーボンニュートラルを実現することをマテリアリティとして本年4月に掲げました。この度Scope1・2・3の可視化を完了させ、気候変動への取り組みを加速させていきます。

CO₂排出量の削減目標を策定・実行するとともに、TCFDの提言に賛同し、情報開示を行っていきます。今後は、その目標が科学的根拠に基づいて実行していくために、SBT認定取得を目指し、コミットメントレターを提出します。

TSIのマテリアリティ

Environment

地球環境

- ① 気候変動
- ② 原材料
- ③ 廃棄物
- ④ 水資源

アパレル業界は地球環境に様々な面で負荷をかけています。その現状を変えていくべく、私たちはまず、地球環境への負荷を可視化した上で、サステナブルな事業モデルの構築に挑みます。

People

人間

- ⑤ ダイバーシティ
- ⑥ 健康・安全
- ⑦ 従業員幸福度
- ⑧ 公正な労働



Social

社会

- ⑨ 地域コミュニティ

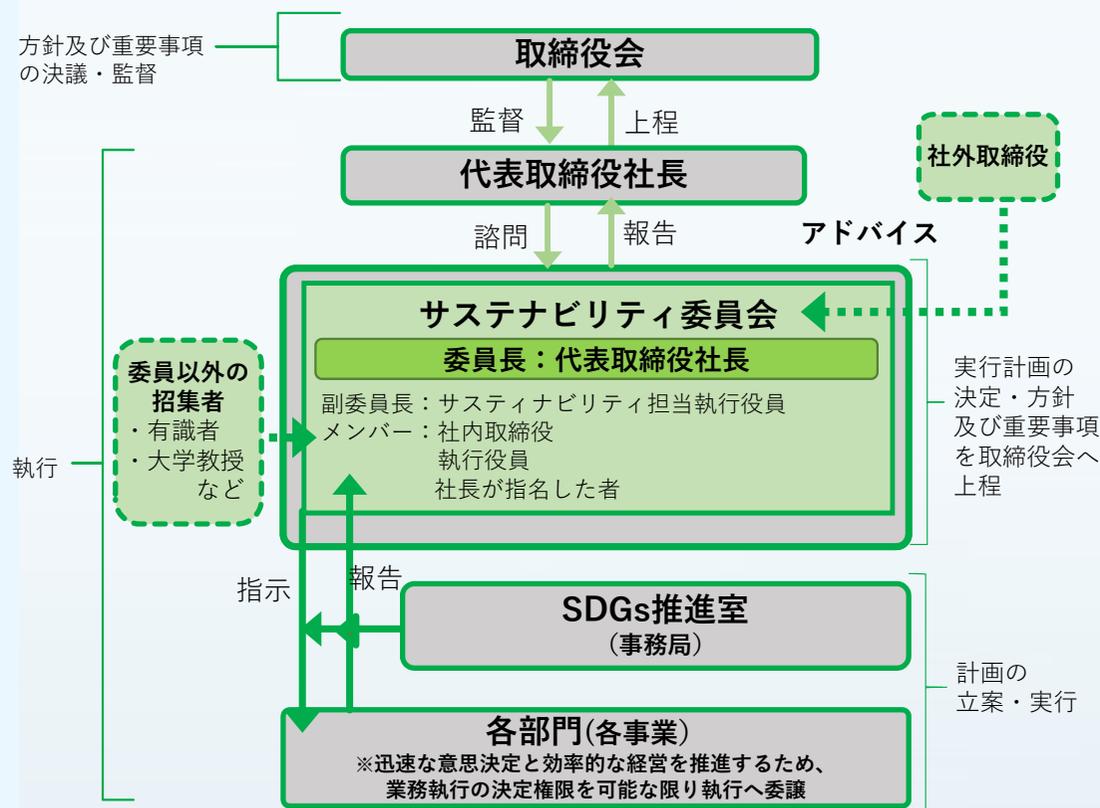
サステナビリティ委員会の設置

気候変動対策と経営方針・中期経営計画が連動したサステナビリティ戦略のガバナンスを強化するために「サステナビリティ委員会」を設置しました。

方針や温室効果ガス排出の管理・削減目標の設定、人権、サプライチェーンマネジメント等の、サステナブルな未来に向けたビジネスの構築をしていきます。

取締役会による監督のもと代表取締役社長の諮問機関として、サステナビリティ委員会を設置し、会社全体のサステナビリティの取組みを推進します。

サステナビリティ委員会体制図



リスクのシナリオ分析

持続的な事業の成長にインパクトを与える重要なリスクについて専門家とともにサステナビリティ委員会で分析・策定しました。

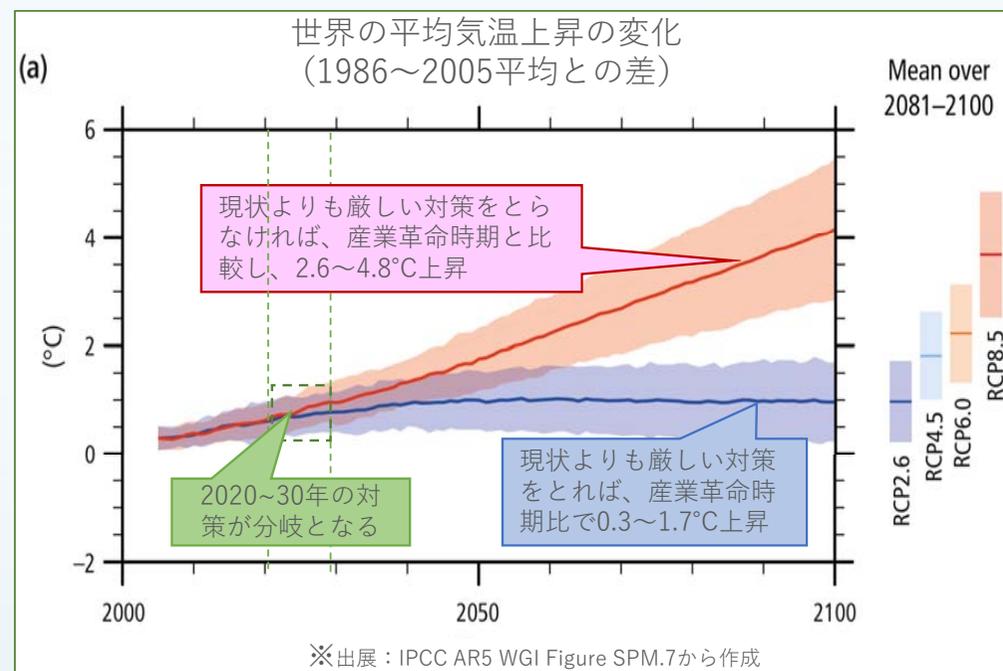
パリ協定の目標である4度および1.5度の既存シナリオとしてIPCCやIEAが公表しているシナリオを参照しました。

今後は気候変動やそれに伴う市場の変化と経営戦略・中期計画とあわせ、柔軟に見直しをしていきます。

[参照シナリオ]

- ・ 4°Cシナリオ：IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)のAR5 RCP (Representative Concentration Pathways) 2.6、4.5、6.0、8.5とAR6 SSP5-8.5を参照。
 - ・ 1.5°Cシナリオ：IEA (International Energy Agency)のSDS (Sustainable Development scenario)と、IPCC AR6 SSP1-1.9を参照。
- ※SSP1-1.9：温暖化を「わずかなオーバーシュートの後」2100年に1850-1900年比で約1.5°Cに抑制し、今世紀半ば頃にCO₂を正味ゼロすることを想定。
※SSP5-8.5：追加的な気候政策を実施しない場合の高水準の参照シナリオ。化石燃料を使用するSSP5の社会経済発展経路においてのみ達成。

分析に用いた気温上の科学的シナリオ



IPCC AR5 RCPにおいて評価された今世紀末までの世界平均気温変化の予測を参照。2030年までに具体的な対策が必要。

リスクの特定

カテゴリ	種別	ドライバー	ビジネスインパクト	影響	
				4度	1.5度
物理	慢性	気温上昇	秋冬シーズン期間の短縮化による重衣料等の売上減少	◎	○
			気温上昇またはそれにとまなう疫病流行による消費者の外出機会の減少	○	○
			屋外スポーツやアウトドアの機会減少によるスポーツ、アウトドア関連商品の売上低下	◎	○
			干ばつ等による綿花収穫量の減少や、水ストレスによる原料価格の高騰	◎	○
	急性		自然災害の増大に伴う店舗休業による売上損失	◎	○
			自然災害に伴うサプライチェーン寸断による売上損失	◎	○
移行	評判	社会からの評判	環境に配慮しない企業イメージの定着によるお客様とのエンゲージメントの弱体化	○	◎
	市場	気温上昇	主要拠点のリスク評価費用や移動に伴うコスト増加	◎	○
		お客様の価値観の変化	環境意識の高まりによるサステナブル商品等、お客様のニーズ変化の対応遅れによる売上損失	○	○
	技術	低環境負荷製品の技術	環境負荷の低い素材や製法への転換によるコスト増	-	◎
			循環型社会の実現に貢献するリサイクル原材料やリユース製品の需要増加	-	◎
	政策	エネルギー	化石燃料の高騰や代替資源の高騰による生産コスト及び物流費の上昇	○	◎
			エネルギーミックスの変化 排出係数の低い設備(再エネ/新エネ/次世代エネ)の発電割合増加による電力料金の高騰、生産コストの増加	○	◎
		情報開示	環境関連の情報開示強化に伴うオペレーションコストの増加	○	◎
		カーボンプライシング	炭素税、EU域内排出量取引制度、カーボンプライシング等、温室効果ガス排出を抑制する政策の導入に伴う、オペレーションコストの増加	-	◎

Strategy

事業改革とイノベーション領域

リスクを踏まえ、機会創出につなげるために3つのイノベーション領域を策定しました。

バリューチェーン全体の改革に向けて、原材料を「マテリアルイノベーション」、モノづくり・流通を見直し、資源循環させる仕組みを「SCMプラットフォームイノベーション」としました。さらに「エンゲージメントイノベーション」では、お客様との新しい関係性を築きます。

これらの領域を進化し、機会・価値を創出していきます。

3つのイノベーション領域



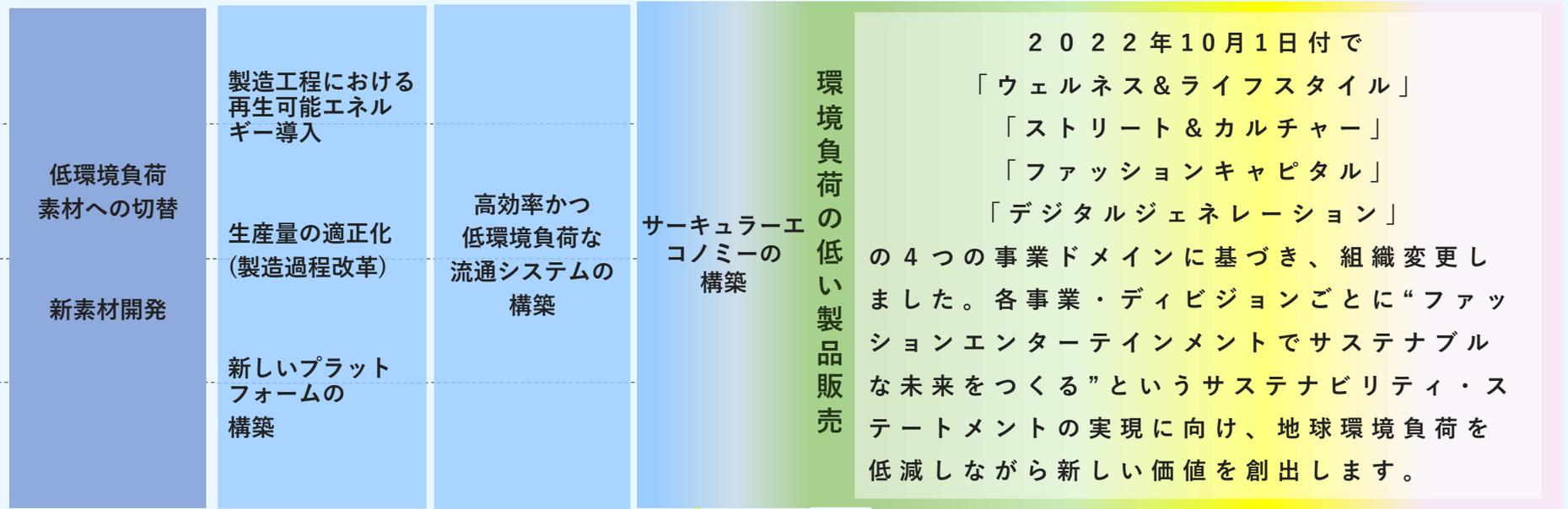
カーボンニュートラルに向けた戦略

イノベーション領域



事業領域

- ウェルネス & ライフスタイル
- ストリート & カルチャー
- ファッション キャピタル
- デジタル ジェネレーション



既存事業・SCM領域

新しい機会：エンゲージメント

気候変動のリスク対応に向けた事業変革
既存事業の基本アクションとして行う脱炭素化

予測困難な時代に対し、柔軟に
トランスフォーメーションする事業体に向かう機会創出

Metrics and Targets

バリューチェーン全体のCO₂排出量可視化と削減目標

事業全体の環境負荷を低減すべく2050年にカーボンニュートラルに向けてバリューチェーン全体のCO₂排出量の可視化をしました。

二酸化炭素削減の中期目標としてScope 1・2の総CO₂排出量を2030年までに2020年2月期比で48%削減し、Scope 3は35%削減することを目標としました。

Scope 1・2・3の削減目標を達成していくことで地球環境へ貢献していきます。

TSI HOLDINGS GROUP

CO₂排出量の実績と削減目標

	Scope 1~3計	Scope 1・2	Scope 3
CO ₂ 排出量実績 2020年2月期	30.5万t	0.9万t	29.5万t
2030年2月期 CO ₂ 排出量 削減目標	▲35% (▲10.8万t)	▲48% (▲0.4万t)	▲35% (▲10.3万t)
SBTにおける CO ₂ 排出量削減 目標設定水準	—	1.5°C目標 毎年4.2% 削減	WB2°C目標 毎年2.5% 削減

※Scope 1・2の削減目標は1.5°C目標に準ずる
Scope 3は2050年カーボンニュートラル目標に準ずる
排出量は千t未満を切捨表示